

1. 「地域活性化アイデア集」作成の背景・目的

五木村を取り巻く状況

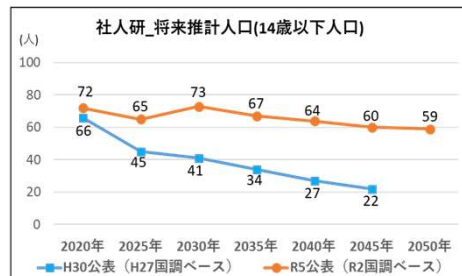
全国的に人口減少や高齢化が進行する中、五木村においても人口減少に歯止めがかからず、R2年国勢調査においては、総人口が931人で県内最小となっています。

また、五木村の主要産業となっている林業の従事者も減少しており、担い手の確保・育成は急務となっています。

五木村 R2（2020年）		
人口	931人	県内最小
高齢化率	約48%	県内2位

五木村の林業従事者	
H22：98人	⇒ R2：53人

一方、国立社会保障・人口問題研究所が公表(R5.12月)した14歳以下の将来推計人口の減少は緩やかとなり、また、経済界有志による人口戦略会議では、若年女性人口の減少が改善されて消滅可能性自治体を脱却したと公表(R6.5月)されるなど、明るい兆しも見られます。



「“ひかり輝く”新たな五木村振興計画」の取組み

村・県・国では、三者で策定した「“ひかり輝く”新たな五木村振興計画」に基づき、五木村の人口減少を食い止め、子どもやその親世代を含めた若年層の人口の増加を図り、基本理念である「誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が集まる“ひかり輝く”新たな五木村」の実現に向けて取組みを進めています。



<林業大学校県南校の機能拡充>

五木村振興計画の取組みの1つとして、県では、くもと林業大学校県南校の魅力化を図り、県内外から多くの人財を募り、育成するため、機能拡充に向け取り組んでいます。

R6年度に設置した検討委員会において、現在、以下のよう新たなコースの設置などについて検討されています。

- ① 2年コース・・・企業経営やデジタル技術を活用できる人財を育成
- ② ショートコース・・・林業と併せて地域を活性化できる人財を育成

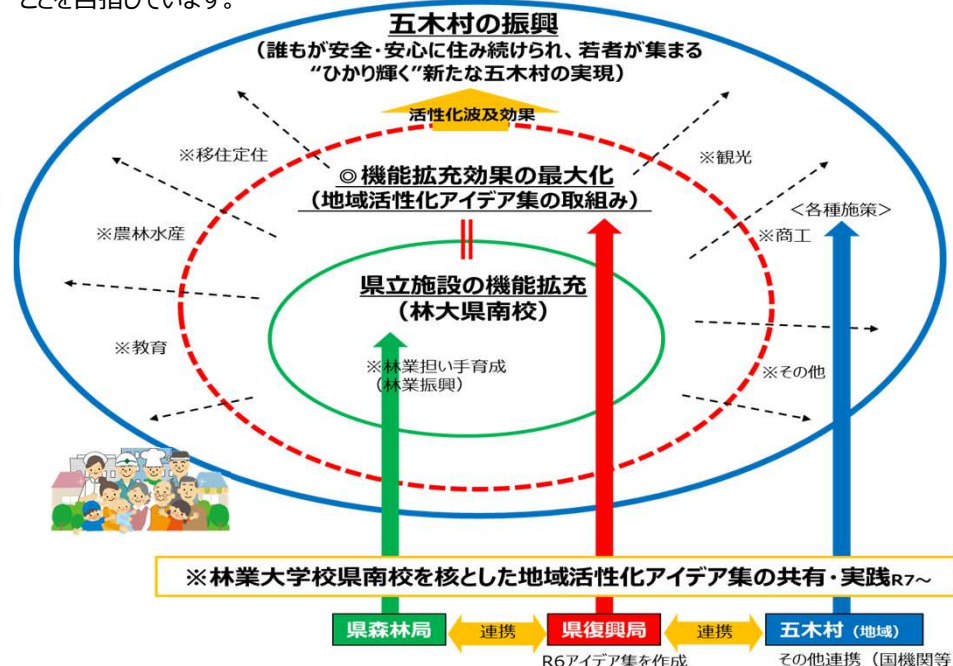


林業大学校県南校の機能拡充を
五木村の振興に幅広く繋げていく好機にしたいと考えました！

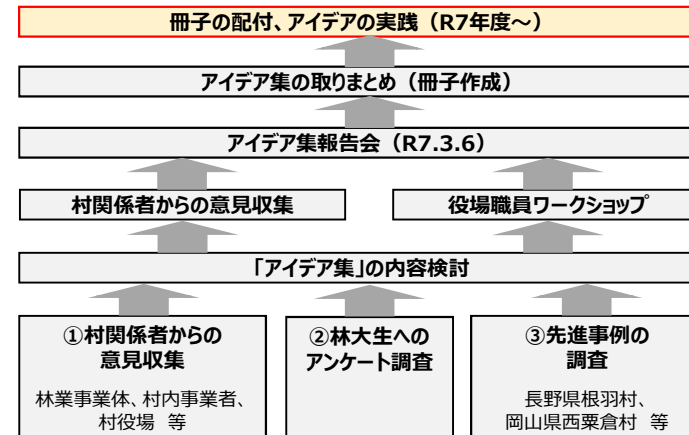
林大の機能拡充を五木村の振興へ繋げる

「林業大学校の機能拡充」は、「県内全体の林業担い手の確保・育成」を主目的としています。その機能拡充による様々な波及効果を五木村の振興にしっかり取り込んでいくためには、村全体での積極的な取組みや働きかけが必要と考えられます。

今回の地域活性化策は、林大の機能拡充を、林業をはじめとした産業振興や移住定住・地域コミュニティ活動の促進など、村の振興に繋げていくための「アイデア集」として取りまとめることを目指しています。



◆アイデア集作成のステップ（令和6年9月～）



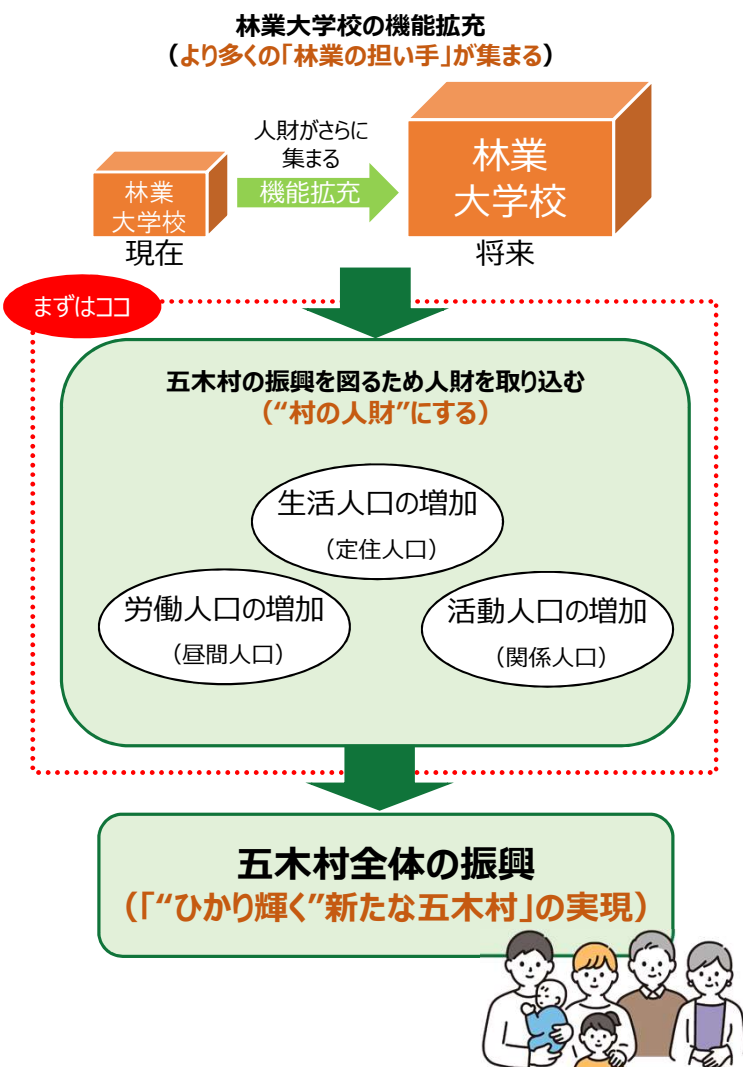
2. アイデア集の取りまとめ方

◎ 基本的な考え方

林業大学の「人財」を村の振興に取り込んでいく

くまもと林業大学校は、今後、機能拡充により魅力が向上し、より多くの「林業の担い手（人財）」が集まる学校を目指しています。

今回、アイデア集の取りまとめにあたっては、まずは、林業大学校に集まる「人財」を、五木村の森林・林業関係の活動の活性化に「取り込み」、それをさらに村全体の振興に繋げていくことを考えました。



林業大学校から取り込んでいくのは「3つの人財」

くまもと林業大学校に関する人財には、(1)林業大学校に在学している学生、(2)林業大学校を卒業した学生、(3)林業大学校の活動に集まってくる人達（県内外の森林関係者等）の3つが考えられます。

五木村では、この3つの人財すべてを村の活性化に取り込んでいく考えで、取組みを進めています。

林業大学校から取り込む「3つの人財」と目標の姿

▼目標の姿

(1)林業大学校の在学生を“村の人財”にする

- ・林大生が、五木村民と一緒に生活や活動をしている状態。
- ・林大生は「五木村に来て良かった」と思い、五木村民は「林大生が来てくれてよかった」と思えるようになっている。

(2)林業大学校の卒業生を“村の人財”にする

- ・毎年数名の林大卒業生が、五木村で生活し、五木村の森林で働くようになっている状態。
- ・村外で働いている卒業生も、引き続き五木村の森林に積極的に関わっている状態。

(3)林業大学校の活動に集まってくる人達を“村の人財”にする

- ・林大の活動に対して、全国の林業事業者や森林関係事業者、林大や研究機関、その他森林に関心を持つ人・組織など、多くの人達が関わっていて、その人達が五木村の森林に積極的に関わっている状態。

特に意識する「11の課題」

「3つの人財」を取り込んでいくにあたって、特に意識すべき課題（＝今、十分に取込めていない要因）を関係者の意見等を踏まえて、以下のとおり11の課題として整理しました。

人財を取り込むにあたっての「11の課題」

① 村民と林大生が「お互い大事な存在」という意識を醸成する

（林大生は1年しか村にいないという認識（地域も林大生も）もあり、関わろうという気持ちが薄い）

② 村民が林業大学校に触れる機会を増やす

（林大生と関わろうという気持ちがあっても、対話する機会や情報に触れる機会が少ない）

③ 在学生の日常生活をサポートする

（林大生は、初めての土地での暮らしや活動で不安なども多い）

④ “林大生が相談できる存在”をつくる

（地域に生活や就業等で相談できる人や場所が少ない）

⑤ 村内事業者の“就業先としての魅力”を高める

（村内事業者へ就業する卒業生が少ない、魅力が伝わっていない）

⑥ 全国から見て森林界隈での魅力的な地域となる

（村全体として森林価値を最大化するという意識が高いとは言えない）

⑦ 村の林業と林業大学校との関わりを深める

（林業事業者等と林大が深い関係性を持つ機会が少ない）

⑧ 就業者のための住宅を整備する

（新たな人の受入れにおいて住宅が不足している）

⑨ 移住者も心地よく生活できる環境を整える

（地域の生活になじめない移住者が気軽に相談できる環境が必要）

⑩ 村の森林に分かりやすい“関わりしろ”をつくる

（企業等の参入・連携し易い環境整備や情報発信が必要）

⑪ 林業大学校の活動に関わるメリットを明示する

（林業関係者や研究機関等が林大と連携する活動が少ない）

3. アイデア集の作成にあたっての意見・情報収集

(1) 村関係者からの意見収集

「村の振興」や「林業や森林の活性化」に関わりが深い皆様（村役場、林業事業体、村内事業者等）に御意見をお伺いしました。以下のようなたくさんの御意見をいただくことができました。

活性化アイデアの実施を通じて実現したい将来像について

- 「村外の人の知恵が村に集まっている」状態
- 「異業種連携」によって若者が惹きつけられている」状態
- 「『業』のために村に来る人や、新たな知恵が集まっている」状態
- 「林業の担い手が確保できている」状態
- 「五木村の暮らしを楽しむ人が集まってきている」状態

「森林で自立する村づくり」について

「森林で自立する村」の現状

- 村全体で「森林は大事な資源」という位置づけはできていないかも…
- 日常的に山に関わる機会が少なくなっている…
- これから大事になる「森林を守る」という意識は薄いかも…
- とにかく人手不足
- 林業として、まだたくさんの「やりしろ」が残っている状態

「森林で自立する村」の理想の状態

- 「林業に従事している人が多い」という状態
- 「やりしろ」を使って「やりたい」ことをやっている人が集まっている状態
- 「木材に『五木村ブランド』を感じられるようになっている」状態
- 「木を使った特産品が売れている」状態
- 「森林で儲かっている」状態

理想を実現するために大事なこと・やってみると良さそうなこと

- 労働環境や労働条件の見直しは必要不可欠
- 「ここに行けば五木村の山・森林・林業のことが分かる」という場所や人を明確にすることも効果的では
- 「森林に関わりたい」「山暮らしを楽しみたい」という人を大事にする
- 木材からの儲けを村内に留め・増やすための仕組みを持つこと（木材市場の設置、製材所の設置など）
- 「五木村の木材は良質」と明確に言えることも大事
- 森林を活用する新たなプレイヤーの誘致

林業大学校(林大生)と地域の関わりについて

現状の関係性

- 地域と大学校の連携は少ない…
- 「林業大学校で何をやっているか」が地域に分かりにくい…
- 交流するための場所がない…アルバイト先も少ない…
- 林大生のイメージが良くない状態かも…

理想的な関係性

- 林大生と地域とが共同でイベント企画・運営できると嬉しい
- 卒業後も五木村に定住してくれると嬉しい
- 卒業後に事業体に就職したり、その後起業したりしてくれると嬉しい

理想を実現するために大事なこと・やってみると良さそうなこと

- 互いの考え方を尊重したり、理解を深めたりすることが大事
- 村のみんなが「受け入れたい」と思えるような関係性を作ることが大事
- 「林大を地域に取り込んでいきたい」という意識を作っていくことが大事
- 地域の大人達から寄り添っていき、積極的に招き入れてあげる
- 村や林業事業体の想いに触れる機会をもっと作ることも大事

活性化の取組みにおける具体的な課題について

住宅の確保

- 新たな人の受け入れにおいては、何より“住宅”の確保が必須
- 平場造成を待たず、今の空家の利活用につなぐ取り組み必要あり（村外にいる空家オーナーに村の様子を伝える手立ても必要）
- 葉枯らし乾燥材活用をからめた空家利活用スキームは検討できないか

人材の確保・取組みの継続

- 何をしても人手が足りてない状況
- 取組みを継続して、実績を積み上げていくことが大事
- 事業者同士、住民同士での話をする機会を作り続けることが大事

日常の買い物環境の整備

- 商業にとっても好機と捉えて取り組む意識が必要な時かもしれない

林業大学校の機能拡充への期待について

- 五木村の山、森林、林業、木材についての研究を行う場所にもなってほしい
- 地域や外部の企業・学校等とも協働しながら、「森林や林業の新たな価値」の発信の拠点（産官学連携による発信の拠点）になってほしい
- 「木を育てる、木を切る」以外の仕事も学べるようなカリキュラムを整備してほしい
- 小中高での林業授業についても、積極的に関与・強化してもらいたい
- 卒業後に期間限定で使えるようなオフィスを林業大学校に併設して整備してみても面白いのでは
- 地域との関わりをリードできる学生が村内に住んでくれると、地域とのつながりがより密接になるのでは（学生寮があればより円滑になるかもしれない）
- 地域との関係性をコーディネートできる人を林業大学校内に配置すると良いと思う
- 入学までのプロセスや入学後すぐの時期にも地域が関われる部分が増えると、より地域とのつながりを作りやすくなると思う

(2) 林業大学校生徒からの意見収集

令和6年度にくもと林業大学校県南校に在学していた6名にアンケートを行ったところ、以下のような考えや希望・期待をお伺いすることができました。

五木村について

Q：五木村の魅力は？

- 豊かな自然環境があること（5人）
- 森林資源を活かした林業（4人）

五木村の“林業”について

Q：五木村の林業で「すごい」と思うことは？

- 「急斜面の大変な環境にもかかわらず、速くて丁寧な仕事をされているところ」
- 「人と人との助けあいがあるところ」

地域との関わりについて

Q：現在の地域との関わりは？

- 地域行事への参加（5人）
- 実習・インターンシップ（3人）

Q：もっと希望する関わり方は？

- 地域行事への参加（5人）

Q：卒業後の地域との関わり方は？

- 機会があれば関わりたい（4人）
- なるべく関わり続けたい（2人）

Q：林大と地域の連携への期待は？

- 地域での実習機会の増加（3人）
- 行事参加への呼びかけ（3人）

Q：五木村に移住したいか？

- 機会があれば住みたい（4人）

Q：「改善されると嬉しい」という点は？

- 日常の買い物環境（4人）
- 住まいの確保（4人）

卒業後の働き方について

Q：卒業後の働き方は？

- 林業事業体で働きたい（6人）

Q：就業先で重視することは？

- 職場の雰囲気（6人）
- 給与の高さ（5人）

Q：卒業後の希望就業先（地域）は？

- 熊本県内（3人）
- 人吉球磨地域（3人）
- 五木村（1人）

Q：希望就業先（地域）を選ぶ理由は？

- 林業が盛んな地域だから（3人）
- やりたい仕事がある地域だから（3人）
- 先進的な林業がある地域だから（3人）
- 地元/居住地だから（2人）
- その地域が好きだから（2人）
- つながりがある地域だから（2人）

Q：五木村を選ばない理由は？

- 行きたい企業・組織が他の地域にあるから（4人）

(3) 先進事例からの参考知見

林業や森林を大事な資源と位置づけながら、それを地域の振興につなげている地域もあります。今回は、長野県根羽村と岡山県西栗倉村を対象に調査を行い、参考となる知見を収集しました。

長野県 根羽村 (ねばむら)

人口約830人、森林率92%と五木村に似た山村。村の全世帯が森林組合員で、村長が森林組合長を兼任する。独自の「NEBA VISION」に基づく「トータル林業」を長年続け、地域活性化起業人制度等を活用した関係人口創出にも注力。2020～21年には人口社会増を実現した。矢作川流域連携を活かした取組も特徴的。



岡山県 西栗倉村 (にしあわくらそん)

人口約1,300人、森林率約95%。2008年に「百年の森林構想」を掲げ、森林の価値を高める取組を継続中。ローカルベンチャーが集まり、2008年以降200人超が移住、約50社が誕生し20億円の経済効果を創出。2015年開始のローカルベンチャースクールや協力隊制度の独自活用等も背景に、複数組織が連携して構想を推進している。



“森林しかない”という強い想い

「NEBA VISION（村の宣言）」や「百年の森林構想」を通じて、「この村には森林しかない」という強い想いと、「村のみんなで森林の価値を再認識し、その価値により地域の魅力を高めて、自立した村を実現していこう」という意志が宣言されています。



森林の価値をコントロールする仕組み

製材所や加工所、村内市場の設置・運営を通じて、木材の価値を村内でコントロールできる仕組みを構築。村内で生産された木材を村内で積極的に利用することで、村内での好循環が生まれ、自立した地域経済の実現に繋がっています。



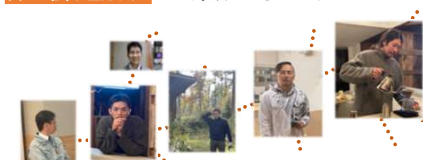
「林業・森林・地域」価値のつなぎ方

根羽村では、柔軟な林業勤務体系の検討や、移住希望者への迅速な事業候補地の提案などで移住を促進。西栗倉村では、既存の林業事業体と新規参入企業との連携によって、より効果的に事業を推進。「林業＝森林＝地域経済/生活」を繋げて、活性化を推進しています。



人を惹きつける「つながり」と「仕組み」

既存制度を活用して村外から招いた人材が、村民の想いや仕事を通じて信頼関係を築いて定着化。その人も加わって生み出された「新しい仕組み」などが、さらに新しい仲間を呼び込み、森林・林業分野だけでなく村全体の課題解決にも繋がっています。



4. 活性化アイデア集

【取り組んでいくことの全体像とステップ】

2 ページに示した「3つの人財」を、“村の人財”にしたいため、「11の課題」を踏まえた「地域の取組み」を、「28項目」のアイデアとして以下のとおり取りまとめました。

これらの取組みをより無理なく進めていくために、「A）すぐに取りかかってみること」⇒「B）少し時間をかけて取り組んでいくこと（準備から始めてみること）」⇒「C）将来に向けて考えだしてみること（林業大学校の機能拡充のタイミングに合わせて進めていくこと）」の3つのステップ(案)に分けて整理しました。また、取組みの検討を進めるうえで、主体として想定される者ごとに色分けしています。

※取組みの詳細は次ページ以降に示しています。

【凡例】

◆取組みの主体として想定される者

村役場

森林関係者

村内事業者

村民全体

◆「①」～「⑪」は、2ページの「11の課題」の区分

	A) すぐに取りかかってみること	B) 少し時間をかけて取り組んでいくこと	C) 将来に向けて考えだしてみること
(1)林業大学校の 在学生 を “村の人財”にする	① 最初の関わりのきっかけづくり ① 地域活動への誘い ① 日常的なコミュニケーションの励行 ② 広報誌への掲載 ② 運動会・文化祭等への参加呼びかけ ③ 「村での生活を語る懇談会（仮称）」の実施 ③ 買い物や食事等の生活ニーズの把握 ③ 村でのアルバイト・活動の手伝いの募集	② 小中高大での協働学習機会づくり ④ 地域メンター※の設置 ④ 「みんなが自然と集まれる場」の設置 （※地域メンター：地域での生活を精神的にサポートする人）	
(2)林業大学校の 卒業生 を “村の人財”にする	⑤ 学生の就業に対するニーズを把握するための機会づくり ⑥ 「森林で自立する村づくり」の推進 ⑧ 空家利活用の推進	⑤ 若年層就業者の積極的な誘致 ⑤ 村内事業体の就業環境の再整備 ⑥ 「森林×起業」に対する支援制度の充実 ⑥ 「新たな林業」や「森林産業」事業体の誘致・設立 ⑥ 「森林で自立する村づくり宣言」に沿った、村の森林・林業の課題の整理 ⑥ 「森林で自立する村づくり宣言」に沿った森林づくりの推進 ⑥ 森林産業の中心拠点の設置 ⑧ 森林関係者住宅の整備 ⑨ 地域メンターの設置（再） ⑨ 「みんなが自然と集まれる場」の設置（再）	⑦ 林業大学校との共同研究・事業の実施
(3)林業大学校の活動に 集まってくる人達 を “村の人財”にする	⑩ 他地域の森林関係者との積極的なネットワーク構築	⑩ 「五木村としての森林産業」の拡大	⑩ 「新たな林業」や「森林産業」に関わる活動企業等の誘致 ⑩ 「新たな林業」や「森林産業」に関わる活動のためのフィールドの提供 ⑪ 共同研究・事業の成果発信

【アイデアの個別概要】

※以下のアイデアでは、現時点で考えられる取組みについて示したものです。関係者がより取り組みやすいよう具体的な活動例も記載しています。（取組み28項目、具体例約60個）

A) すぐに取りかかってみること

(1)林業大学の**在学**生
を“村の人財”にする

① 最初の関わりのきっかけづくり

林大生が入学したタイミングで、**林大生（新入生）と村民とが顔を合わせる等の機会**をつくります。

【具体的な活動例】

- ・入学式への村民の参加
- ・入学後の村での歓迎会の開催
- ・入学後の広報誌等での林大生紹介 など

① 地域活動への誘い

村民が地域のイベント（特に林大のある頭地地区でのイベント）を行う際に、林大経由や個人経由で**学生の参加を呼びかけ**ていきます。

【具体的な活動例】

- ・村の秋祭り、冬祭りへの参加の呼びかけ（林大ブースの設置等）
- ・地域のお祭りへの参加の呼びかけ など

① 日常的なコミュニケーションの励行

日常生活の中で林大生と会った時、挨拶や声かけなどを**地域の人達から積極的にコミュニケーション**を行っています。

【具体的な活動例】

- ・日常的な挨拶の実施
- ・日常的な声かけの実施 など

② 広報誌への掲載

村の広報誌に、「林大だより」というページを設けたり取材記事を書かせたりして、**林大の活動を村民みんなにお知らせ**します。

【具体的な活動例】

- ・林大生による記事の作成（広報誌にコーナーを設置）
- ・役場広報による林大の取材 など

② 運動会・文化祭等への参加呼びかけ

村の学校（小中学校・高校）で開催される**運動会や文化祭などへの林大生の参加**を呼びかけます。

【具体的な活動例】

- ・運動会への参加（林大生が実技を披露）
- ・文化祭への参加（林大生が学習成果を披露） など

③ 「村での生活を語る懇談会(仮称)」の実施

森林関係者で協力しながら、村や学校での生活、将来の進路などで**悩んでいることがないか等を話す懇談会**を定期的に行います。

【具体的な活動例】

- ・林大生との懇談会の実施
- ・林大内で決めたリーダーとの懇談会（リーダー会議）の実施 など

③ 買い物や食事等の生活ニーズの把握

林大生とのコミュニケーションを通じて、**日常的な買い物や食事に関する困りごとや希望を把握し**、対応可能性について検討を行います。

【具体的な活動例】

- ・「村での生活を語る懇談会」への参加（懇談会会場としての貸し出し）
- ・日常的なコミュニケーションを通じた困りごと・希望の調査 など

③ 村でのアルバイト・活動手伝いの募集

林大向けに、**村内事業者でのアルバイト募集や村内での活動・イベントのスタッフ募集**を行います。

【具体的な活動例】

- ・林大内に募集掲示板を設置
- ・掲示板へのお知らせ掲出
- ・林大内で周知依頼 など

(2)林業大学の**卒業生**を“村の人財”にする

⑤ 学生の就業に対するニーズを把握するための機会づくり

林大生の卒業後の就業に対しての希望を把握するために、森林関係者が共同で、**林大職員や学生とコミュニケーションする機会**を持ちます。

【具体的な活動例】

- ・林大主催の就職セミナーへの参加
- ・森林関係者で「五木村森林就職懇談会」を主催・招待 など

⑥ 「森林で自立する村づくり」の推進

「森林は重要な資源。新しい林業への取組や森林の活用を進めつつ、将来にわたってみんなで森林を大事にしていこう」という**意識を村全体でもう一度高める活動**を行います。

【具体的な活動例】

- ・「森林で自立する村づくり宣言」の再確認 など

⑧ 空家利活用の推進

村内の**空家を有効に利活用するためのスキーム（仕組み、工夫等）を整理し**、住まいの確保に取り組んでいきます。

【具体的な活動例】

- ・「サブリース方式」や「森林環境譲与税の活用」等も考慮したスキームの整理
- ・県外にいる空家オーナーへのコンタクト
- ・空家利活用イメージの具体化 など

(3)林業大学の**活動に集まってくる人達**を“村の人財”にする

⑩ 他地域の森林関係者との積極的なネットワーク構築

「森林で自立する村づくり」に**共に取り組んでくれる人や組織との持続可能なネットワーク**を構築していきます。

【具体的な活動例】

- ・現地を訪問してのディスカッション実施（㈱GREEN FORESTERS、㈱百森等）
- ・森林関係者が集まる場への参加 など

B) 少し時間をかけて取り組んでいくこと

(1) 林業大学の在学
生を“村の人財”にする(3) 林業大学の活動に集まってくる人達
を“村の人財”にする

② 小中高大での協働学習機会づくり

小中学校・高校での「森林」「環境」等の分野における探求学習の一環として、**林大との協働学習の機会**を設けます。

【具体的な活動例】

- ・協働学習時間の設定
- ・学習成果の対外的な発表 など

④⑨ 地域メンターの設置
(地域での生活を精神的にサポートする人)

村外から来て生活する人が**気軽に相談できる存在**（地域メンター）を設置します。
※林大生以外からの相談も受けます。

【具体的な活動例】

- ・地域メンターの募集・採用
- ・地域メンター研修の実施 など

④⑨ 「みんなが自然と集まれる場」の設置

「村外から来て生活する人」や「地域の資源を活用した活動を行う人」などが、**村民とも一緒に集えるための場所**を設けます。

【具体的な活動例】

- ・拠点整備（既存物件リノベーション）
- ・コミュニティマネージャーの設置 など

⑩ 「五木村としての森林産業」の拡大

五木村が考える「これからの森林産業」を定義・発信しながら、**既存の事業体と新しい事業体とで協力して産業を立ち上げて**いきます。

【具体的な活動例】

- ・森林産業に関する調査・整理の実施
- ・モデル林を活用した実証事業 など

⑤ 若年層就業者の積極的な誘致

林大以外からの若い就業者の誘致も進め、林大生が進路検討の際に重要な要素となる**「同年代の就業者」の獲得**を進めます。

【具体的な活動例】

- ・地域おこし協力隊制度等を活用した林業就業者の誘致 など

⑤ 村内事業体の就業環境の再整備

労務条件、人間関係、業務内容など、若い林業の担い手の意識を把握しながら、**就業環境の再整備や情報発信**に取り組みます。

【具体的な活動例】

- ・柔軟な労働条件導入の検討
- ・「新たな林業」への積極取組 など

⑥ 「森林×起業」に対する支援制度の充実

「五木村の森林資源を活用して事業を立ち上げる」という人・組織に対して、ヒト・モノ・カネの面からの**積極的な支援**を行います。

【具体的な活動例】

- ・拠点整備（既存物件リノベーション）
- ・コミュニティマネージャーの設置 など

⑥ 「新たな林業」や「森林産業」事業体の誘致・設立

「新たな林業」や「森林産業（森林活用・保全等）」に、**村の林業事業体と連携しながら取り組める新たな事業体**の誘致・設立を進めます。

【具体的な活動例】

- ・補助制度整備 ・起業オフィス整備
- ・制度を活用したキャリア形成支援 など

⑥ 「森林で自立する村づくり宣言」に沿った、
村の森林・林業の課題の整理

五木村の林業や森林活用・保全等の現状を整理した上で、宣言に沿った**取り組むべき課題を整理**します。

【具体的な活動例】

- ・林大との現状・課題の検討
- ・村外の森林関係者との議論 など

⑥ 「森林で自立する村づくり宣言」に沿った
森林づくりの推進

「森林で自立する村づくり宣言」に沿って、**五木村の森林価値を最大化するための取組**を検討し、実施します。

【具体的な活動例】

- ・取組計画の整理
- ・事業活動の推進・投資の検討 など

⑥ 森林産業の中心拠点の設置

五木村の森林についてコミュニケーションができる場所（**「そこに行けば五木村の森林・林業が分かる」という場所**）を設置します。

【具体的な活動例】

- ・拠点整備（既存物件リノベーション）
- ・コミュニティマネージャーの設置 など

⑧ 森林関係者住宅の整備

森林関係事業体で働く人や、村の森林資源を活用して事業・活動を行う人が**優先的に居住できる住宅の整備**を進めます。

【具体的な活動例】

- ・住宅整備（既存物件リノベーション）
- ・新規整備に向けた土地確保 など

C) 将来に向けて考えだしてみること

(3) 林業大学の活動に集まってくる人達を“村の人財”にする

(2) 林業大学の卒業生を“村の人財”にする

⑩ 「新たな林業」や「森林産業」に関わる
活動企業等の誘致

「新たな林業」や「森林産業（森林活用・保全など）」に関わる活動を行っている**組織・企業等を積極的に誘致**していきます。

【具体的な活動例】

- ・取組計画の整理
- ・事業活動の推進・投資の検討 など

⑩ 「新たな林業」や「森林産業」に関わる
活動のためのフィールドの提供

「新たな林業」や「森林産業」に関わる活動を実践している組織・企業等と林大の**共同事業のためのフィールドを提供**します。

【具体的な活動例】

- ・「共同トライアル事業林」の設定
- ・共同事業案の検討・提案 など

⑪ 共同研究・事業の成果発信

村の森林関係事業者と林大の講師・学生による**共同研究・共同事業の成果を対外的に発信**していきます。

【具体的な活動例】

- ・研究・事業成果資料の作成・発信
- ・成果発表機会への参加 など

⑦ 林業大学校との共同研究・事業の実施

村の森林関係事業者と林大の講師・学生が協働して、**村の森林の課題に関する共同研究・共同事業**を行います。

【具体的な活動例】

- ・共同研究の計画・実施
- ・共同事業の計画・実施 など

5. 地域活性化策（アイデア集）の実践に向けた取り組み

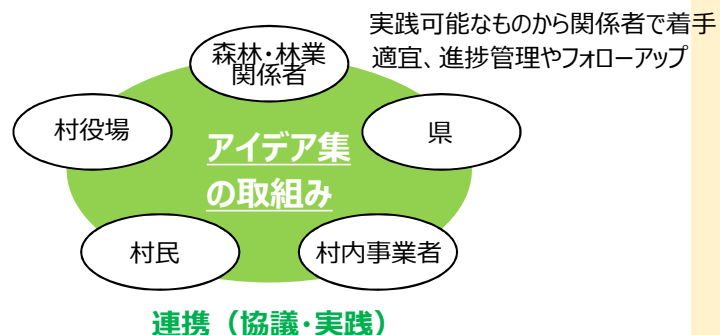
R 7 年 3 月

アイデア集の作成

R 7 年 4 月

アイデア集の配付

アイデア集の実践（1 年目）



R 8 年 3 月頃

年度末報告会

※年度内に実践した内容の共有及び
次年度実践策の検討

R 8 年 4 月～

アイデア集の実践（2 年目以降）

五木村全体の振興
(「“ひかり輝く”新たな五木村」の実現)